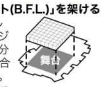
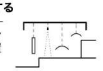
1 新たなパブリックスペースをつくる4つのコンセプト

○中心に「ビッグフライロフト(B.F.L.)」を架ける
B.F.L.の下には大・小ホールに加え、メモリアルステージがあります。一人一人が自分自身や共同体の記憶と向き合い、主役となれる空間です。



○様々な規模の集まりの空間を束ねる
B.F.L.は、独りから2000人まで様々な規模の集まりの空間をその下に束ね、人々の多様な居方(いかた)を受け入れます。

○空間がモードチェンジする
B.F.L.は、メモリアルステージやホールのモードチェンジをバックアップする装置です。



2 周辺環境に呼応する新しい仙台の中心

青葉山,広瀬川,中心市街地,仙台湾、この街の様々な環境に呼応する新しい中心となります。

3 仙台の文化と歴史に接続する空間「メモリアルステージ」

・震災メモリアル拠点には、厳粛さと親密さ、祝祭性を併せ持つ特別な空間が相応しいと考えます。音楽ホールとの複合という特性を活かし、B.F.L.の下に「メモリアルステージ」を提案します。
・メモリアルステージは、誰しもに開かれた立体的な屋内広場であり、低層部は芸術を創造・発信、高層部は都市の記憶を共有・継承するための場となります。
・メモリアルステージを取り巻いて、震災メモリアル拠点の諸室を立体的に配置します。ホールとも連動した本建築ならではの様々なモードチェンジが起こるフレキシブルな空間です。

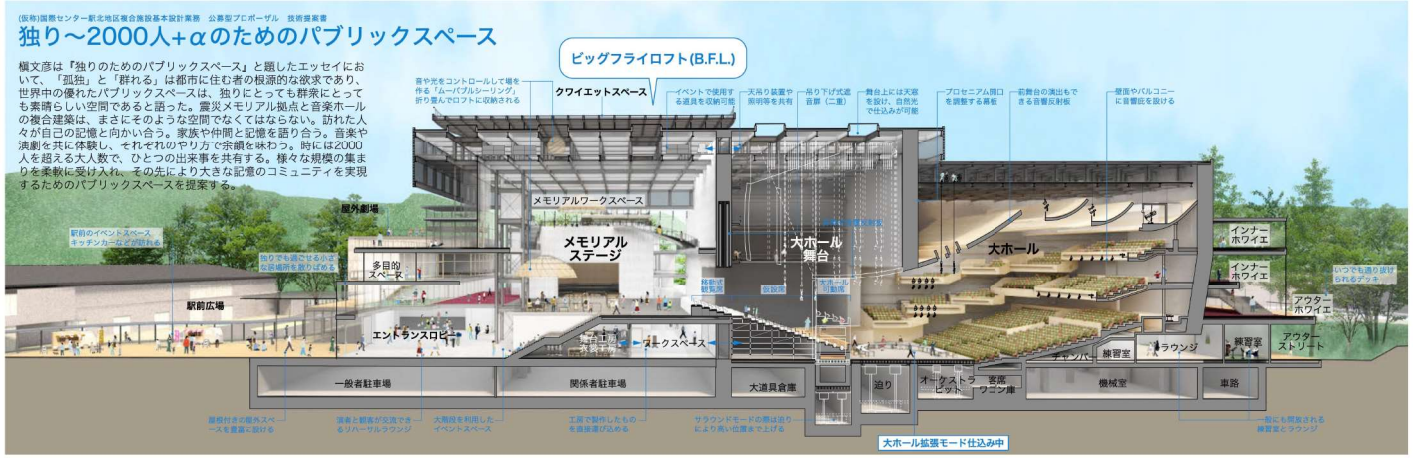
メモリアルステージのモードチェンジ

通常モード
・2Fはメモリアル拠点、大・小ホールの共通ロビーとして使用
・メモリアル拠点の諸室を囲む立体的な動線空間
・6Fメモリアルワークスペースは職員の執務室とアーカイブがあり、利用者の研究、学習、新作を支援する

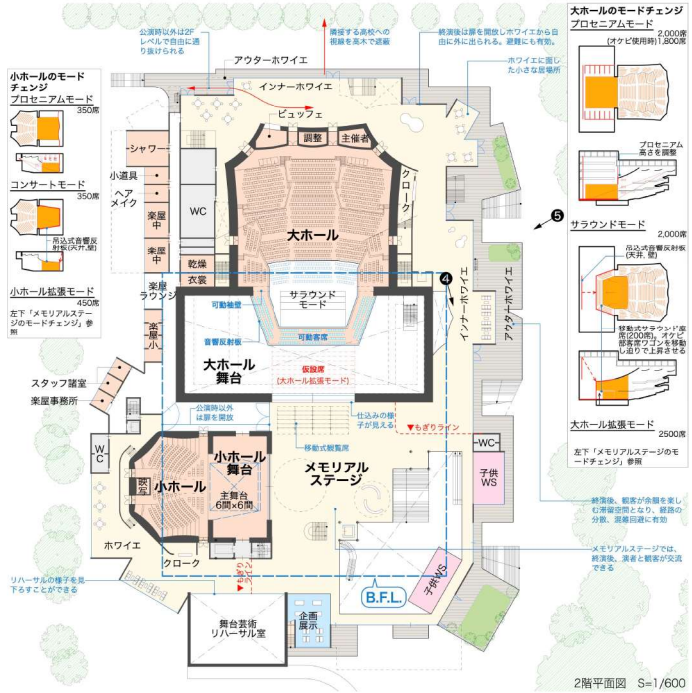
イベントモード
・2FにB設置したステージや展示を立体的に取り囲む劇場的な空間となる
(例)
ランチタイムコンサート
公開シンポジウム
展覧会
国際会議のレセプション
学会のポスターセッション

大ホール拡張モード
・新舞床と仮設席の組み合わせにより、2500席を超えるより大きなサラウンド型ホール形式になる
(例)
3.11メモリアル等の無料公開イベント
大規模な討論会

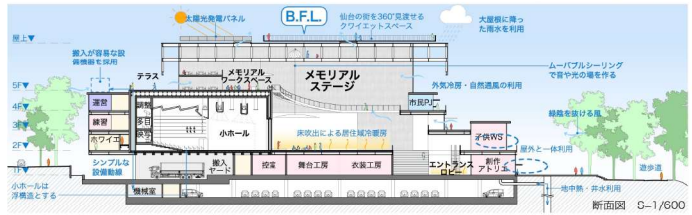
小ホール拡張モード
・前方客席を移動し、面み型の舞台配置とする等、舞台演出の可能性を拡張することができる



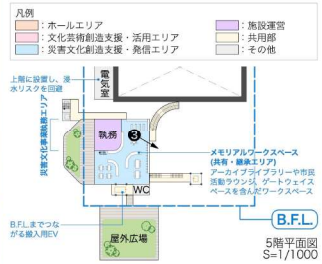
1階平面図　S=1/600



2階平面図　S=1/600



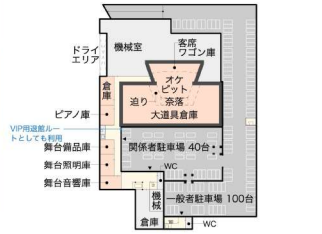
断面図　S=1/600



5階平面図
S=1/1000

4階平面図
S=1/1000

3階平面図
S=1/1000



地下1階平面図
S=1/1500

❶全ての人を受け入れる新しい駅前の顔

駅前広場からB.F.Lを見上げる

❷プロ・アマが共有できる創作スペース

1Fエントランスロビーに面して工房やリハーサル室がある

❸都市の記憶をつなぐ活動の場

5Fメモリアルワークスペースからメモリアルステージを見下ろす

❹華やかなイベントと日常の活動が連続する

2Fインナーホワイエからエントランス方向を見返す

❺広瀬川沿いに展開する活動の場

同時多発的に起こる様々な活動

❻川向こうからも視認できる集まりの場

夕暮れ時に光るB.F.Lを目指して人々が集う